

メディアコミュニケーション学演習Ⅲ B 1

担当者	荒川 雪(アラカワ ユキ)				
年度	2022	授業コード	1540108001	科目ナンバリング	
対象年次	4	授業形態	演習	単位数	2
時間割	秋火2	開講キャンパス	白山	教室	6 2 0 6 教室
主たる使用言語	日本語		実務教員科目		
授業科目区分					
授業回数					
受講対象学科					

【サブタイトル】

メディア史、世界のメディア、ゼミ論・卒論の作成

【講義の目的・内容】

本演習はメディア史、世界のメディア、とくに新聞や雑誌などの報道や発展の歴史についての研究能力を高め、ゼミ生全員が各自のテーマでゼミ論あるいは卒論を完成できる能力を養う。ゼミ論は3万字以上、卒論は4万字以上で書いてもらう。履修者は4年間の集大成としてぜひ卒論の提出を目指してもらいたい。

【学修到達目標】

1. メディア研究の技能を養う。
2. メディア史、世界のメディアの発展の過程に関する知識を備える
3. 履修者は3年ゼミでの個人研究の上、4年間のメディアに関する学習の集大成としての個人研究のテーマを決め、関連史資料を収集し、発表し、ゼミ論（春学期2.5万字以上、秋学期3万字以上）あるいは卒論（4万字以上）を完成する

【講義スケジュール】

秋学期

- 第1回 オリエンテーション（夏休みの課題の提出、秋学期の発表日程の決定）
- 第2回 春学期ゼミ論の修正版の提出と秋学期のゼミ論（卒論）構想発表①
- 第3回 春学期ゼミ論の修正版の提出と秋学期のゼミ論（卒論）構想発表②
- 第4回 春学期ゼミ論の修正版の提出と秋学期のゼミ論（卒論）構想発表③
- 第5回 個人研究の発表と全体討論①
- 第6回 ゼミ論（卒論）の第一次仮提出と個別指導①
- 第7回 ゼミ論（卒論）の第一次仮提出と個別指導②
- 第8回 ゼミ論（卒論）の第一次仮提出と個別指導③
- 第9回 個人研究の発表と全体討論②
- 第10回 ゼミ論（卒論）の第二次仮提出と個別指導①
- 第11回 ゼミ論（卒論）の第二次仮提出と個別指導②

第12回 ゼミ論（卒論）の第二次仮提出と個別指導③

第13回 個人研究の発表と全体討論③

第14回 ゼミ論（卒論）の第三次仮提出と最終修正に関する個別指導

第15回 まとめとゼミ論の提出

卒論の提出はメディアコミュニケーション学科が決めた締め切りと方法で提出してもらう。

【指導方法】

1. 個人発表を通じて、メディアの研究の基本技能を養ってもらい、プレゼンテーション能力を向上してもらう
2. 個人研究を通じて、自分の興味のあるテーマを見つけてもらい、そのテーマに関する史資料調査の方法を個別に指導する。ゼミ生には1年間をかけて、一貫したテーマでのゼミ論（卒論）を執筆してもらうため、春学期に研究テーマを決定し、春学期と秋学期に個人発表とゼミ論の提出、教員による個別指導の下、実証的な研究手法でゼミ論（春学期2.5万字以上、秋学期3万字以上）あるいは卒論（4万字以上）を独自に完成できるように指導する。
3. 学術的研究の進め方が理解できるようになる。

【事前・事後学修】

履修者には、ほかの学生の研究発表の内容についてコメント、質問できるようにToyoNet-ACEを通じて事前に配布した資料を読んでから参加してもらう。個人研究に関しては、史資料調査や発表準備をきちんと行うこと。毎回授業の後、しっかり復習し、教員の指導内容やほかの学生の報告に対する質問・コメントを必ず提出してもらう。また授業時に教員が指示した課題についても必ず締め切りまで提出してもらう。事前事後学習は毎週3時間程度必要。

【成績評価の方法・基準】

授業参加度（出席、討論など） 10%

個人研究発表 40%

提出課題 50%

【受講要件】

3年次のメディアコミュニケーション学演習ⅡAB（荒川雪コース）の履修者のみ履修可能。

メディアコミュニケーション学演習ⅢB（秋学期）からの受講はできない。

【テキスト】

配布資料

【参考書】

なし

【関連分野・関連科目】

メディアコミュニケーション学基礎演習A・B、メディアコミュニケーション学演習ⅠA・B、メディアコミュニケーション学演習ⅡA・B

【備考】

ゼミ（演習）は、教員の指導以外に、履修者同士から得られるコメントやアドバイスも重要である。履修生が互いに協力して研究を進めてほしい。

【添付ファイル1】

【添付ファイル2】

【添付ファイル3】

【リンク】